



横浜市立恩田小学校 学校だより 1月号

発行 令和2年1月7日



「熱中」「集中」「夢中」！

校長 古屋 澄人

あけましておめでとうございます。今年の元旦は私がよく出向く近所の初日の出スポットには雲が厚く広がり初日の出を拝むことができませんでした。その後青空が広がり、富士山を映し出したきれいな夕日を見ることができました。

2020年度は、新学習指導要領が完全実施となります。この学習指導要領には次のような願いが込められています。

学校で学んだことが、子供たちの「生きる力」となって、明日に、そしてその先の人生につながってほしい。これからの社会が、どんなに変化して予測困難になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。そして、明るい未来を、共に創っていききたい。

※文部科学省「生きる力 学びの、その先へ」より引用

PISA（2018年に実施した世界各国の15歳の学力を測る国際学力調査）の結果が昨年12月に公表されました。日本の子どもたちは、科学と数学はトップレベルを維持しましたが、課題とされている読解力は前回より低い15位という結果となりました。この「読解力」を育てるためには、単なる文章を読み解く力だけでなく、教科全体の中で根拠を明らかにして判断したり、表現したりする力を育てていくことが求められています。恩田小学校の子どもたちは、身近な出来事から課題を見つけ、自ら考え、判断して、協働しながら問題を解決する学びづくりに取り組んでいます。また、新しい学習指導要領で求められている「地域に開かれた教育課程」を目指し、子どもたちが地域にでかけ地域の皆様から多くのことを学んでいけるようにしていきたいと思えます。そして、学校で学んだことを生活に生かしたり、家庭で経験したことを学びにつなげたりして「生きる力」として働かせることができるようにしていきます。

今年はいよいよ東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。子どもたちは、オリンピック・パラリンピックを通して、スポーツの価値（チャレンジや努力を尊ぶ態度、フェアプレーの精神、他者の尊重や自己実現、健康増進など）を学ぶことと思えます。その学びをこれからのグローバル社会に求められている主体的・協働的に課題を解決する力、多様性を尊重する態度の育成につなげていきます。

今年の子年。子どもたちが「熱中（ネツチュウ）」し「集中（シュウチュウ）」し「夢中（ムチュウ）」になるような1年にしていきたいと思えます。本年もどうぞよろしくお願いたします。